

第27回川崎市文化芸術振興会議会議録（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成24年7月17日（火）
午後2時30分～午後4時45分
- 3 場所 明治安田生命ビル2階第3会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（会長）、垣内委員（副会長）、猪口委員、岩森委員、城谷委員、高田委員、野畑委員、林委員、渡辺委員
 - (2) 事務局 市民・こども局市民文化室
中島室長、大坪担当課長、石床担当係長、西塚
- 5 議題
 - (1) 今後のアセスメントの評価の進め方について
 - (2) 平成23年度文化アセスメントの提言内容について
 - (3) 平成24年度文化アセスメントの対象事業の決定について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。澤井会長に議長をお願いする。

議長 まずは、議題（1）の「今後のアセスメントの評価の進め方について」事務局から説明をお願いしたい。

事務局 アセスメントのフィールドワークや、提言をまとめる工程について、今まではグループ分けを行ったうえでフィールドワークを行い、その意見をグループ会議である程度まとめたうえで、部会・振興会議を経て提言内容を決定していた。しかし、この形であると、所属グループ以外の事業について、委員の参加機会が少なくなってしまう。そのため、委員がアセスメント対象事業全てに参加できるような評価の進め方を検討してほしいとの提案が委員よりなされている。

アセスメントの進め方については、条例や振興計画で明確に定められているものではなく、振興会議で決定してきた経過がある。今年度のアセスメントの進め方について、振興会議で審議いただきたい。

議長 従来、振興会議において、会議をどのように進めるかという議論をしながら今の形ができてきた。グループをA・Bに分けて進めきたことは、委員の時間的状況を考慮したひとつの手段であるが、全体会議の開催回数をもっと増やして、たたき台を作る会議に充てたらどうかという提案であると思われる。その辺りの議論お願いしたい。

高田委員 平成23年11月の新任第1回目の会議で申し上げたが、振興会議の委員というのは9名しかいない。わずか9名で年間テーマが2つであれば、わざわざグループ分けにしてやることはないと思う。多様な意見をということであれば9名の方全員が参加してやっていくべきではないか。皆さんが忙しい中で集まり、日程的にいろいろ問題あるというのは承知しているが、一旦受けた以上はやはりその覚悟でやるべきだと思う。グループ会議であろうと、全体会議であろうと都合が悪ければそれはしょうがなく、原則はやはり9名全員が揃ってやるというのが大前提になるのではないかと。

議長 今の高田委員の考えはグループ会議に分けないという考えだが、全体会議で意見を出し合った内容を案としてまとめる作業は必ず必要となる。これは、どんな会議でも一緒だと思われ、全体会議で議論したからといって成案が出るものではないと思う。

城谷委員 高田委員の意見に私も賛成する。今までも、両方のフィールドワークに、ほとんどの委員が参加された。可能な限りその形でよいと思うし、その中で1人、2人欠けるのはやむを得ないと思う。

猪口委員 原則的に全員参加はいいと思う。グループ分けはしない方がいいと思う。

渡辺委員 今までも全員でやれば良かったが、手が間に合わなそうだとすることで分けたと思う。川崎市全体を見るという意味で、先ほども資料の中に各区の音楽事業があったが、事務局が絞ってくれて、あとやればよいというなら皆でやれないことはない。しかし、たった9名か10名でチェックして皆で討論するとなったら大変なことだろうと思う。事業にあわせて臨機応変にやるというやり方が一番で、全員で出来る事業であれば、やはり皆でやるのが一番いいと思う。

野畑委員 部会の摘録も事務局が送ってくれており、部会の会議に出席できなくても委員はちゃんと目を通している。そして全員が揃った時に気がついたことを発言すればよいと思うため、今のスタイルでもよいかと思う。高田委員がおっしゃった、全部責任を持って出席するということについてだが、たとえ少人数でもきちんと発言してくれる委員がいれば会の運営には良いかと思う。

垣内委員 参加した時からすでにグループ分けされていたので、そういうものだと思っていた。今までも、AグループだからBグループに行ってはいけないというようなことはなく、私も他のグループのフィールドワークに参加したし、必ず意見書を出していたので、排除されているという感覚は無かった。展覧会であれば会期中に行けば

何とかなるが、パフォーマンスの場合は特に日時が決まってしまう、その場所、その時間に行かなければならない。日時が決まってしまうと、なかなか難しいと思うが、全員ができるだけ参加するというについては賛成である。

もう一点、全体の意見を最後に誰がまとめるかということだが、まとめていく過程については、全員でまとめていくことは困難であり、何人かで担当を決めてまとめていくシステムの方がいいと思う。

- 城谷委員 議長 テーマを選出してから決めてもよい。
- 議長 従来型のようにグループ分けして合同会議をすると、それは全体会議と一緒にだから全体会議を可能な限りやる。2項目あるので、最低限2回はするという形にして、あとは皆さんのディスカッションした議論をまとめる役を、事務局と委員の中で幹事になってまとめ役をしてもらうという方法はどうか。皆さんがグループ分けをやめようかというのであればそれでもよいが、欠席者を出さずに全員出席というのは難しいと思う。その時々委員の意見で運用は変わってきているため、今の委員の皆さんの話合いで都合のいい方法を見つけていけばいいと思う。
- 高田委員 振興会議の運営の指針は条例、文化振興計画、会議規則、文化アセスメント・マニュアルしかないと思われる。そういうものに則って運営していくことになるだろうから、原則はどうあるべきかはきちんとしておくべきだと思う。
- 議長 振興会議の運営の原則は、極力全員参加し全体会議でものを決めていくというものであり、この原則は一度も外したことはない。そのうえで、今後のアセスメントの方法についても、この会議で決めていけば良いと考える。
- 林委員 全員となると日程の調整が難しくなると思う。委員の日程に加え、ヒアリング等の際は先方の日程も調整しなければならないため、2つに分ける方がいいと思う。
- 事務局 フィールドワークと皆で集まる全体会議で分けて考えることもできるのではないか。例えば、事前にヒアリング項目を決めておけば、ヒアリング当日は全員参加ではなくてもその結果を摘録で提出できるかと思う。
- 林委員 それはいいアイデアだと思う。ヒアリング結果も全員に送ってもらえると、欠席された方もそれを元に評価できる。
- 岩森委員 いろいろなケースを見て、参加して評価を出してということは良いと思うが、後はどのくらい時間を使わなければならないか。
- 議長 それでは、新しいアセスメント方式として委員全体でやってみることでどうか。議論も全員でやるが、たたき台を作っていくまとめ役をできれば学識委員にお願いしたい。垣内委員と林委員にA・Bで各々まとめ役になっていただいて、たたき台を作っていただきたい。
- 猪口委員 今の意見を聞いて、やりがいについて聞きたいのだが、過去評価された結果を受けて市はどのように受け止めて、どのような計画、対応をされていたかを教えて欲しい。
- 事務局 一番初めのアセスメントが平成21年度の事業のアセスメントとして対象とな

っていて、その提言が平成22年の夏になっているため、その事業に予算が反映されるのは、平成23年度事業からになる。平成23年度事業についてどうだったかということについて、各所管に投げて、こちらでまとめて振興会議の中で報告させていただきたいと思う。

猪口委員 全体の流れの仕組みを作って、これだけ委員の方の時間を割いているのだから、評価・結果をどう受け止めて、これをいつまでにという計画書は、せめて提言から一か月で出さなければならないと思う。

事務局 現在の振興計画の中で、アセスをやって市長に提言をするというまでは仕組みとしてあるが、提言を受けた側がどういう風に事業に反映させてどういう風にやってきたかを検証する仕組みが策定されていないため、評価の部分の仕組みを作成している。

猪口委員 この仕組みを作った時に結果を出すように何で考えなかったのか。

事務局 しっかりと検証したものを出すまでまだ至っていないが、現在、作業している。

議長 予算制度があるため、事業にすぐに反映できるかということ、困難であると思う。ただ、いくつか反映する意向であるということは聞いたことがある。

事務局 文化芸術振興計画自体も平成25年度で第1期が終了する。第2期進行計画については、大きな計画の方向性については、第1期振興計画を継承し、問題や課題のある部分を反映させて作っていく必要があると考えている。そのため、アセスメントの評価の方法等も第2期の振興計画に仕組みを載せていくべきではないかと考えている。また、次期、振興計画における仕組みづくりとは別に、現在のアセスメントについても、その結果の検証等は行っていく。

議長 議題の1についてはグループ分けをやめて全体会議を設けるとということ、議論の取りまとめに関しては、学識委員である林委員と垣内委員にお力添えいただくということによろしいか。

猪口委員 先ほど申し上げた個別の事業に対するフィードバックのプロセスの部分がよくわからない。

議長 事務局はこちらから出した意見には基本的には2年次後、平成21年度のアセスメントは23年度事業に反映するように市民文化室では各所管に申し入れている。その結果をもらって、こちらに出てくると思う。予算上、すぐには無理だと思う。それでは議題2の「アセスメント報告書（たたき台）」について事務局より説明をお願いしたい。

事務局 今までに委員から寄せられた会議での意見や、評価書をまとめた形で報告書のたたき台を作成し、部会で審議していただいた。こちらについての検討をお願いしたい。

城谷委員 非常によくできていると思う。自分が感想を述べた範囲から、内容が広がっており、いろいろな人の意見が集まるのはいいなと思った。

岩森委員 アクセスがよくないが、施設そのものは魅力的であり、新しい青少年科学館など

も素晴らしい。今後、生田三館や、藤子、地元商店街とのコラボも是非、具現化してもらいたい。それ自体が商店街の活性化にも繋がる。

議長 取組評価の中の、効率・効果の部分の記載を強調するというのでよいか。

高田委員 取組評価の事業の目的部分に「目的の達成度については、入場者数などの数値のみで一概に測りきれものではないが」と言いつつ、一方、提言部分等では集客力向上についての課題が記載されており、ちぐはぐさを感じさせる。美術館への来館者数は、館の運営にとり、極めて大切な指標の一つであるということと言い切ってもいいのではないかと思うと同時に、この文章の文脈が、不明確に感じられる。

林委員 美術館運営を専門にしている立場からすると、あまり入場者ばかり強調すると、受けのいい展覧会ばかりをやる方向に走る可能性がある。美術館というのは、時には学芸員が地道に研究している、一見地味だが次に繋がる可能性がある展示をやっていく必要があり、あまり入場者にとらわれていると、現場が入場者の入らない企画展をやりにくくなってしまう。そのため、この「入場者数などの数値のみで一概に測りきれものではないが」という一文は非常に重要だと思う。この一文が無いと商業的な企画に走ってしまう。

垣内委員 教育的側面がある公の施設に、商業施設と同様の効果を求めるというのは難しく、ここの一文は必要であると考え。一方で、岡本太郎美術館を知らない人にも知ってもらいたいという面もある。「一概に測りきれものではないが」の後に、「情報の発信や潜在的なお客さんの掘り起こしをするべきである」という一文を入れてみてはどうか。

議長 美術館の目的の達成度は入場者だけではかかれるものではないが、『より多くの人に知ってもらう機会があった』ということをもう少し詳しく書くということによいか。『より多くの人に知ってもらう機会を増やすことにより、入場者数を増やすことができたと考えられる』といった形でどうか。

猪口委員 岡本太郎美術館は女性のリピーターが多かったが、なぜ行くのかと聞いたら、美術館に行くまでのアプローチが素晴らしいということであった。環境のついでとして子どもたちの遊び場の美術館であると言っていた。

高田委員 今あるホームページについてはぜひ提言したい。4月1日に岡本太郎美術館に新しい館長が着任されているが、館長の姿勢・方針らしきものがあるわけでもないし、館の概要が年報の中に盛り込まれているようなホームページの作りはどうかと思う。SNSの活用も良いが、今あるウェブサイトを早急に手直すべきではないか。また、川崎市岡本太郎美術館協議会の活性化を図っていかなければならないと思い、今日、情報プラザに寄って協議会の議事録を読もうとしたが、議事録が無い。まずウェブサイトや今の情報公開の状態をしっかりと手入れすることが先決ではないか。

議長 川崎市岡本太郎美術館協議会の議論はアセスメントの対象にはならないと思う。

もう1つの高田委員のご意見は、提言の“各種の SNS の活用”の前に“HP の改善”という言葉を入れるべきではないかということだが、これはどうか。

林 委員 例えば、この HP の改善にしても SNS の活用にしても大変な仕事量で、欧米の美術館ではネット関係の専門職員が何人もいる状況である。ウェブサイトにしても一度作って終わりではなく、頻繁に更新しなければならない。担当者がいないと大変ではないかと思う。

事務局 川崎市の多くの部署の場合、外部向け HP を作成する段階では業者に依頼し、トピックスなど、更新が必要な部分は職員が更新している。それ以外のレイアウト変更となると委託で業者に依頼する必要がある。

林 委員 日本の美術館のほとんどが欧米の美術館のサイトに比べると、一度見たらもう見る必要が無いというくらい情報が無い。やはり、専門の人を置くぐらいでないと無理ではないか。

議 長 “HP の改善”という言葉を入れるかどうかということについてはどうか。

林 委員 入れるのはいいが、簡単にできないと考える。

垣内委員 今はいろいろなソフトウェアもあるので、ちょっとした改善くらいはできるのではないか。

高田委員 確かに、言うのは簡単だが、実際には大変であると思うが。

渡辺委員 美術館の責任者や担当者を呼んで事情を聞く会をしないと、なかなか裏側までは理解できない。予算も無いのにそのようなものを作れと言われても無理だよと言われたらそれまでではないか。

猪口委員 ネットの議論をされているが、どれぐらいの人がネットを見て来場しているか。おそらく少ないと思う。どのような地域の層の方に美術館に来ていただきたいかということをお前提にしないと、SNS を一生懸命やっても無駄だと思う。それをきちんと調べて、例えばタウンニュースに効果があるとなればそれに集中するなどすべき。

議 長 皆様のご意見を集約して、提言の“各種の SNS の活用”の前に“HP の改善”という言葉を入れるということで良いか。

次のガラス工芸振興事業はどうか。

高田委員 川崎市の公的支援のスタンスを明確に問うべきだと思う。

また、ウェブサイトの手直し等は、太郎美術館と同様である。

議 長 取組評価の効率・効果についての「市の産業・観光資源として発展させていくには、かわさきガラスに対する市の予算規模は少なく、人材育成と産業化の長期的な視点に立った支援が見られない」という部分か。

林 委員 これは経済労働局の事業の中では、文化よりの事業だと思われるが、産業化することが川崎市の目的なのか。

事務局 その具体的なビジョン、産業化したいのか、灯を消さないように支援したいのかがはっきりと見えないという意見が非常に多い。

- 議 長 取組み評価の事業の目的の部分で、「川崎のガラス工芸をどう発展させたいかという将来展望や目的、目標設定について、具体性に欠ける」とあるので、一応の問題提起はしてあると思う。ガラス工芸は、このあたりでよいか。
- 高田委員 私は必ずしもこれでよしとは思わない。時間切れですと言われればしょうがないが、もう一度、今回の議論を踏まえてきちんと話し合わないといいい報告書にはならないのではないかと思う。
- 林 委員 まとめた意見があるようなら、まとめたものを送っていただき、後でメール等で意見を問うということはどうか。
- 議 長 市長への提言の日程もあるため、軽微な文言修正はともかく、賛同いただければ今日で決めさせていただきたいがどうか。高田委員の意見は、今後の振興会議の運営において受け止めたい。
- 事務局 それでは最後の議題の「平成24年度文化アセスメント対象事業の決定について」事務局より説明をお願いしたい。
- 事務局 候補として、部会の審議を経て、4つの事業に絞らせていただいた。
- 1つ目は、区における文化事業。もともと、過去の振興会議で、区における事業を対象としたいという意見があり、多摩区と宮前区の音楽事業をそれぞれ提案させていただいていたが、1つ1つの事業規模が小さいという意見があり、7区全体の音楽事業を提案させていただいた。
- 2つ目は、映像のまち推進事業。過去に、しんゆり映画祭についてアセスメントを行なっているが、今回は、別の側面、学校での映像教育や映像シンポジウムなどについて候補としてあげさせていただいた。
- 3つ目は、子どもの音楽活動推進事業。文化的視点の新たな視点として、『文化と教育』をテーマにした事業を候補としてあげさせていただいた。市内の生徒による、子どもの音楽発表会などが主な事業である。
- 4つ目は、青少年科学館の運営事業。本年4月末にリニューアルオープンし、科学館本体だけではなく、周りの岡本太郎美術館等も波及効果で大きく来場者が伸びている。
- 野畑委員 プラネタリウムの大平さんはNHKでも取り上げられていた。そのような宣伝が大きいのだろう。子どもの音楽活動推進事業はぜひ入れていただきたい。子どもたちは一生懸命やっているし、ある程度大きな予算でやっている事業を対象としたい。
- 林 委員 参考資料3-1の「平成24年度各区が主催・共催する音楽事業調査票」は各区が主催するものに、市も予算を出しているような形なのか。
- 事務局 区ごとに予算を持っていて、事業も区ごとに行っている。
- 林 委員 1つは、子どもの音楽事業はよいと思う。もう一つは博物館の運営がよい。「映像のまち・かわさき推進事業」は予算的にも小さい。100万円くらいのものに労力をかけてアセスメントする価値があるのかなと思う。

- 渡辺委員 「区における音楽事業」はあまりにも事業が多く、やめた方がいいと思う。
- 城谷委員 「子どもの音楽活動推進事業」は入れていいかなと思う。「映像のまち・かわさき推進事業」は以前にしんゆり映画祭のアセスメントをやったのでやらなくてよいかと思う。「博物館施設等の運営」は概算金額が空欄になっているのはなぜか。
- 事務局 予算には工事費等を含むため、概算金額は空欄とし、別紙の資料にて、個々のイベント等の予算額をいれさせていただいた。
- 城谷委員 区における音楽事業は、多すぎてぼやけてしまうかと思う。
- 高田委員 あまり議論はないと思う。林委員と一緒に「子どもの音楽活動推進事業」と「博物館施設等の運営」が妥当だと思う。
- 岩森委員 私も「子どもの音楽活動推進事業」と「博物館等の運営」がいいと思う。
- 猪口委員 「子どもの音楽推進事業」はいいと思う。
- 垣内委員 私も皆さんと同じでいいと思うが、文化と教育ばかりになってしまうのがどうかと思う。
- 議長 皆さんが「子どもの音楽推進事業」と「博物館施設等の運営」で異論がないようですが、よろしいか。
- 城谷委員 賛成でいいのだが、市のシティセールスなどは、アセスメントの対象にならないのだろうか。
- 事務局 シティセールス自体も文化振興の中に位置づけられている事業ではある。ただし、シティセールス事業自体が文化活動を行なっているというよりは、文化も含めた市全体を発信していく役割が事業の主体となっているため、アセスメントの対象となるかは、検討の必要がある。
- 議長 それでは、平成24年度の対象事業は「子どもの音楽推進事業」と「博物館施設等の運営」で決定する。以上で予定した議題は終了です。
- 事務局 議題1で決定したとおり、グループ分けはせずに皆さんに参加していただくということになるかと思う。青少年の事業については、イベントも多いため、これはフィールドワークに取り入れてほしいという部分があったら、事務局宛に御連絡いただきたい。
- 議長 「子どもの音楽推進事業」と「博物館施設等の運営」を見に行くとしたらいつ頃になるか。
- 事務局 「子どもの音楽推進事業」に関しては1月20日に子どもの音楽の祭典がある。「博物館施設等の運営」は、青少年科学館で星空コンサートが12月に開催されるが、定員が200名なので入れてもらえるかという問題がある。事業としては毎月開催されているものもあるので、何を観に行くかによるが、早くても9月頃からになる。
- 議長 では、本日の会議はこれで終了とする。

(会議終了)